（別紙4−2）

事業所名　グループホームはるか

目標達成計画

作成日：　平成22年12月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	利用者一人一人の、生活歴などを基に、役割や楽しみを見出し、活動・実行への支援をしているが、個別より全体での活動が多くなったり、全員には出来ていない部分がある	利用者ひとりひとりが、日常生活の中でその思い、自分の持てる力を発揮する事で、笑顔あるれる生活場面を作れるようにする。	ひとりひとりのアセスメントをしっかりと行ない、その人自身を深く知ることや、日々の関わりからも、思いを汲み取り、その人が出来る部分を引き出し具体的活動につなげていく。	1年
2	27	日々の様子やケア記録は取っているが、そのケアの根拠についての職員の意識にばらつきが見られる。情報の共有がしっかりされていない。	職員全員で情報の共有をし、「気づき」を、具体的なケアに反映させていくことを普遍化する。	その瞬間の言動、行動を逃さない様に、「気づきノート」を作り、利用者の思い、希望を把握する。その内容は、チーム会議で共有、検討を行ない、具体的なケアに繋げていく。	1年
3	21	利用者が孤立しないための配慮は行なっているが、逆に、親密になりすぎる問題（性の問題）への対応が難しい。	使用者ひとりひとりの思いや自由を尊重しつつ、集団生活での対人関係において、行き過ぎた言動により、関係悪化を招かぬよう留意する。	行き過ぎた言動に発展しないよう、様子を見守り声かけをしたり、環境を整える。問題が起きてしまった場合は、上司に報告、相談し対応をしていく。	1年
4		基本介護力の向上（口腔ケア・水分・排泄）利用者のアセスメント力の向上　適切な記録、	●介護の基本を踏まえ、具体的な目標を立てて日々実行する　●認知症診断、元々の人柄などの状況を丁寧に把握し、ケアの根拠とすることができる　●適切な記録によりケアの状況を振り返られ、また根拠とすることができる	●水分の補給と排泄ケアの見直し　●認知症の理解と個々の状況理解を進める取り組み　●効率的かつケアの根拠になりうる記録方法・様式の取り組み	1年
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。